des ハ琉球以北ニナク caesium ハ九州、四國、紀州ヲ經テ房州迄來テ居リ明ニ暖地性ヲ示シテ居ル、之ニ反シ本州ニ於テ産スル大多數ノモノハ moluccanum ニ屬スルモノデ假令ヘ裂芽ヲ有シテ居テモ其子器ト葉體トノ構造デ斷然コレニ入ルベキモノデアル、以上ノ議論ヲ整理スレバ次ノ通リトナル

Leptogium tremelloides (Linn. fil.) Wain. Étud. Lich. Brésil, vol. I, p. 224.　はひいろきのり（琉球、臺灣）

Leptogium caesium (Ach.) Wainio, Étud. Lich. Brésil, vol. I, p. 225.　こなあをきのり（臺灣、琉球、九州、四國、紀州、房州）

Leptogium moluccanum (Pers.) Wainio, Étud. Lich. Brésil, vol. I, p. 223.　うすばあをきのり（臺灣、小笠原島、九州、四國、本州以北）

var. myriophyllinum (Müll. Arg.) nov. comb.　こばのあをきのり（同　前）

(*Syn.*) *L. tremelloides v. myriophyllinum* Müll. Arg.

var. azureum (Ach.) nov. comb.　あをきのり（九州、四國、本州以北）

(*Syn.*) *Leptogium azureum* Ach.

var. pichneoides (Nyl.) nov. comb.　ちゞれあをきのり（同　前）

(*Syn.*) *Leptogium pichneoides* Nyl. Lich. Jap. p. 15.

○古事記ニ見エシ植物（承前）

理學博士　白井光太郎

ソレカラ段々長クナリマスガ栲ト云フ字ガアリマス、之ヲたくト讀ミマス、古事記ニ人ノ名デ栲幡千々姫ナド

トアリマス、之ガ何カトイフノデアリマス、古事記ニハ人ノ名ニ出テ居リマスガ萬葉ナドヲ見マスト色々ノ栲デ造ッタモノガアル、栲綱デアルトカ、栲領巾ナド栲綱ガアル、此栲ト云フノハ斯ウ云フ字ヲ書クノハ間違ヒデ栲ガ本當デアルト、萬葉ノ名物家ナドハ申シマスガ、之ヲ字引デ見マスト國字日本デ作ッタ字ト云フコトニナッテ居リマスガ、栲トイフ字ハ支那ノ文字デアリマス、何シロ斯ウ云フたくト云フ木ガアッタノデ、栲綱（タクナハ）、栲領巾（タクヒレ）、栲夫須麻ナドト云フモノヲ作ッタモノデアルノデス、此たくト云フ植物ガ何デアルカト云フコトハ、萬葉集品物解ナドニ依ルトかぢのき、今日ノかうぞデアルト云フコトデアル、栲、コノ字ガ日本デ拵ヘタトスレバ斯ンナ字デアリマスガ、古事記ナドニハ栲ノ方ガ書イテアッテ、是ハ支那ノ玉篇デ見ルト木名山榖也トアル、サウシテ新撰字鏡デ見ルト、榖ハ加治トナッテヲリマス、是カラ推シテ行クト此栲ハ、山榖ト云フ山ニ生エテ居ルやまかぢト云フ譯ニナル、コレハ此榖ノ字ヲかぢニ當テルノハ間違ッテ居ルノデアリマシテ、榖ノ字ハ今日云フ所ノにはうるしト云フ木デかぢデハナイノデアリマスガ、昔ハ之ヲかぢニ當テ、サウシテ栲ヲ山ニ生エテ居ルかぢニ用キタモノカモ知レナイノデアリマス、サウスルトたくトかぢト同ジモノカト云フト、コレハ方言カラ調ベテ見ルト、普通ノかぢデナイヤウデアリマス、コレモたくト云フモノヲ方言デ段々考ヘルト、實際殘ッテ居ル所ハ又八丈島ガ引合ニ出マスガ、八丈島デ、タコノキト申シマス、又奈良縣吉野郡ナドデハ、實際たくト云フ名稱ガ殘ッテ居ル、此たこのきモたくモ同ジ名稱デアリマス、コレハ吉野ノ方面ニたくトイフモノガ實際アル、八丈ノハたこのきトシテ殘ッテ居ル、コレハ今日何ト云フモノカトイヒマストひめかうぞト云フ木デアリマス、普通ノかうぞハ栽培シタモノデ野生ハ無イモノデアリマス、之ガひめかうぞトイフモノデ、山ニ自然ニ生エテ居ルかうぞデアリマス、古代ノたくトイッタモノガ野生ノかうぞデひめかうぞトイフモノニ當ルヤウデアリマス、此皮ヲ剝イデ色々ノモノヲ造ッタノデアリマス、かうぞノ類ニハかうぞ、かぢ、ひめかうぞト三ツアッテ、かうぞトかぢハ野生ハ無イ、是ハ大陸カラ來タモノデアリマス、ひめかうぞトイフモノハ

山ニ野生ガアル、古代ノたくト云フノハ此ひめかうぞニ當ルヤウデアリマス、實際其方言ガ殘ッテ居ル、かうぞトかぢト云フモノハ、男ノ本ト女ノ木ト別ニナッテ居ル、ひめかうぞハ一ツノ木ニ雌雄ノ花ガ出來ル、ソレデ區別ガ出來ル、是モ方言カラ考ヘルト、明カニ古代ノたくハひめかうぞトイフコトガ分ル

【牧野云フ】白井君ハ栽培シテアルかうぞハ大陸カラ來タモノダト謂ハレテヰルガ私ハサウハ考ヘナイ、此レハ手近カノ山ニ澤山アル野生ノかうぞ卽チかぞ卽チたくガ其用途ニ對シテ段々栽培セラレテ來タモノト推考スルノガ常識デアル(渡來セシト云フ證據ガナイ以上ハ)、ソシテ之レヲ栽培スレバ自然ニ其木ガ肥エテ來ルノガ當リ前デアッテ其場合之レヲ山地ノ野生品ニ比ブレバ其肥瘠ニ相應差ノ出來ルノハ他ノ例ニ見テモ敢テ珍シイ事デハナイ、又野生ノ品ニハ葉ニ毛ガアッテ栽培スレバ其レガウスクナルナドノ事ハアリ勝チノ事デアル、大昔ハ天然生ノかうぞ(たく)ノ皮ヲ採テ衣物ニ織ッテ之レヲゆふ(ミン)ト稱ヘタガ後チハ世ガ段々開ケテ專ラ之レヲ栽培シ紙ニ製スルヤウニ變ッタ、支那ニモ此種ガアルヤウニ明ノ方以智ノ著ハシタ『通雅』並ニL. DIELS 氏ノ Die Flora von Central-China. ナド一二ノ文獻ニハ見エテハ居ルガ同國デハ日本程普通ニハ無イヤウデ(私ハ支那ニ行ッテ見ヌカラ實際ノ事ハ能ク知ラナイガ)其レハ支那ノ種々ノ書物ヲ見レバ其邊ノ消息ガ能ク解セラレ多クノ書物ニハかうぞハ出テ居ナク其能ク書中ニ見ルモノハ單ダ楮一名構一名穀卽チ所謂かぢ(Broussonetia papyrifera VENT.)ノミデアル、上ノ『通雅』ト云フ支那ノ書物ニハ「穀一曰レ構、扁穀謂ニ之楮一○其高大皮駁、實如ニ楓實一、熟則紅、璣曰、幽州謂レ構爲ニ穀桑一、書所レ云桑穀竝生者也、一種皮白葉長實小、似ニ覆盆子一、其木不レ能ニ高大一、俗謂扁穀、所レ謂楮也、楮皮宜レ紙、穀皮粗、宜レ爲ニ茵帳一、本草極言ニ楮實之益一、東壁合レ之、」トアッテ他書ニ似ズ構ト楮トヲ別ッテヰル、然シ其字面ヲ二分スルコトガ果シテ正シキカ否カハ今遽ニ裁判ガ出來ヌ、其レハ支那植物ノ實際ニ精通シタ人デ始メテ之レヲ能クスルバカリデアル、又白井君ハかうぞハ其木ニ雌雄ガアッテ男ノ木ト女ノ木トガ別ニナッテヰルヤウニ書カレテヰルガかぢハサウ

デモかうぞハ雌雄同株デ決シテ雌雄異株デハナク男ノ木ト女ノ木トニ分レテハヰナイコトハ同君ノ云フひめかうぞト何等異ッタ所ハナイ、山生ノかうぞハ自然ニ瘠セテヰルモノガ多ク中ニハ其葉ガ桑ノ葉ホドニナッテヰルモノモアルカラひめかうぞノ名モ出タデアラウガ然シ土地ノ肥エテヰル處ニ生ジテヰルモノハ枝モ能ク伸ビテ太ク葉モ闊ク厚ク其栽培品ト比ベテサウ遜色ノナイモノヲ見ルコトアルハ斷エズ植物ノ採集ニ從事スル者ノ往々認ムル所デアル、又其幹ガ直徑凡ソ一尺ホドニナッタモノヲ私ハ數年前ニ九州ノ大隅デ見タコトガアッタ、サテ今日デハかぢト云フ語トかうぞト云フ語ヲ二ツニ分ッテ一方ノ品卽チ Broussonetia papyrifera Vent.（此樹ハ昔渡來シタモノデ本來我邦ノ產デハナイガ今ハ製紙用ニかうぞト共ニ諸州デ作ッテヰル）ヲかぢト呼ビ又他方ノ品卽チ B. Kazinoki Sieb. ヲかうぞト呼ンデ二途ニ使用ハシテヰルガ然シ元來ハかぢノ語トかうぞノ語トハ同一ノモノデアラウト思フ、今日デモ國ニヨッテハ中ノ小別ケハアルガ兩品ヲ總稱シテかぢト云ッテヰル處ガアル又兩品ヲ通稱シテかうぞト云ッテヰル處モアル

ソレカラ御綱柏ト云フモノガ古事記ニ見エテ居リマスガ、コレハ仁德天皇ノ皇后ガ「爲ニ將豐樂（トヨノアカリ）ニ。於採ニ御綱柏ヲ。幸ニ行木國之間。天皇婚ニ八田若郎女。於レ是大后。御綱柏積盈。」還行之時ソレヲ途中デ海ニ捨テタトイフコトニナッテ居ルノデアリマス、此御綱柏ト云フモノハ、此豐ノ樂ニ用ヰル必要ノ植物ニ相違ナイノデアリマス、コレハ又延喜式ナドニモ出テ居ルノデアリマス、延喜式ノ大嘗祭ノ式ノ所ニ御綱柏ト云フモノヲ用ヰルコトニナッテ居ル、三津野柏二十四把大嘗式ノ造酒司供奉料、之ニ酒一石二斗、日々四斗、三日間續クノデ三四一石二斗ト云フコトニナル、ソレカラ三津野柏二十四把、日ニ八把トイフコトニナリマス、大嘗祭ニ用ヰル所ノモノニナッテ居ルノデアリマスガ、此植物ガドウ云フモノカト云フノデアリマス、ソレガ一寸ムヅカシイモノニナッテ居ルノデアリマスガ、三津野柏ノ形ガドウイフモノデアルカトイフコトヲ書イタモノガ鴨長明伊勢之記ニアル、之ニ依ッテ見ルト、コレハ一寸長ウゴザイマスガ、

此國に三津野柏といふものあり、小侍從が歌に神風や三角柏にとふことの沈にうくは涙なりけりとよめり、これにて占ふ事あるにや、年ころおぼつかなく思ふことを、此度人々に尋ぬれば元聞及ばぬよしをのみいふ、いかなる事にか此柏輔親卿集に、みもすそ川の岸に生るとよみ侍るは其わたりにあるかとて尋ぬれば、昔やありけむ、今世には志摩の國の内にとくの島といふ所にあり、木の上にかづらのやうに生たるをのぼりてきりをろす時、ひらに伏て落たるは取らず、堅さまに落たるばかりをとる、其落やうにぞ間事のありとかや言傳へたる、これは神宮の四度の御祭の時、必入物なり、御前の遊はてゝ四の御門の腋にとくらと云おほみわを設く、社のつかさ此三角柏を各一葉づゝ持てよれば、其上に此みわをそゝぐことさらこれを腰にさして出るなり、長柏ともいふにや寂阿法師百首の中に思ふ事とくの御島の長柏長くぞ賴む廣きめぐみをと云り、かやうに聞けど未だ其すがたをば見ず、此日或人の許より贈れり、柏のやうにて廣さ三四寸長さ三尺ばかり、まことに常の木草には似ず

ト斯ウアルノデアリマス、コレハドウイフモノカトイフト、植物ノ方デイフト之ガおほたにわたりトイフモノニ當ルノデアリマス、木ノ上ニ生エルモノデアリマス、幅三寸位、長サ三尺位カラ五尺位ニナルノデアリマス木ノ上ニ生エテ谷カラ谷ヘ飛ンデ蕃殖スルト云フノデ、たにわたりトイフ名ガアルノデアリマス、みつながしはト云フノハ、此伊勢之記ト云フモノニ出テ居ル此植物ニ當ルノデアリマス、此葉ハ一枚デ五尺位ニナルモノガアル、之ヲドウ云フ風ニシテ用キタカトイフト、今讀ンダ中ニ酒ヲ注グト云フコトガアリマスガ、延喜式ナドニ依ッテ見マスト、此みつながしはノ葉デ酒ヲ受ケテ飲ムト云フコトニナッテ居リマス、酒ヲ飲ンダ後デ、ソレヲ鬘ニスルト云フノデアリマス、長イカラ頭ニデモ何デモ巻ケルデアリマセウガ、葉ヲ管ノヤウニシテ其中ニ酒ヲ注イデ飲ム、之ガ酒ニ何故關係ガアルカト云フコトヲ、一寸考ヘテ見マスト、斯ンナ草カ酒ノ所ニドウシテ出テ來ルカトイフ疑ガアリマスガ、コレモ亦八丈島ノコトガ出マスガ、八丈島デ黒酒トイフモノヲ造リ

マス、粟デ黒酒ヲ造ルノニ黒麴トイフモノヲ使フ、其麴ヲ造ルノニ蒸シタ粟ノ上ヘ此ノおほたにわたりノ葉ヲ被セルノデアリマス、ソレデ八丈デハおほたにわたりノコトヲかうじぶたトイフ方言ガアル、酒ノ麴ヲ造ルノニおほたにわたりトイフ植物ノ葉ヲ竝ベテ被セル、此植物ハ酒ヲ造ルノニ關係ガアルノデアリマス、ソレデ古代豐ノ明ナドトイフ時ニ、みつながしはナドトイフモノガ出テ來ルノハ、矢張リ酒ヲ造ル麴ナドヲ造ルノニ必要ガアッテ、其時ニ用キテ自然酒ト關係ノアル時ニ、之ガ用キラレルヤウニナッタモノデアラウトイフヤウニ考ヘルノデアリマス、コレハ先年――明治二十年アタリニ八丈島ニ行キマシタ時ニ、實際黒酒ヲ造ル麴ナドヲ造ルノニ之ヲ用キタトイフコトガアルコトヲ知ッタノデアリマス、其他澤山植物ハアリマスガ、是位ニ致シマス

○藤ノ街路樹

朝比奈泰彦

本年ノ端午ノ節句ノ日ニ京都藥專助教授島田玄彌君カラ便リガアリ且色々ノ植物ニ關スル寫眞ヲ贈ラレタ其中ニ左ノ如キ藤ノ繪ガアッタ、島田君ノ言ニヨルトコレハ京都市東山區山科御陵三條街道ニ面スル一茶店ノ店頭ヲ飾テ居ルモノデ同君ガ藥專ニ出勤セラルヽノニ日々其傍ヲ通行スルノデ花期毎ニ其美觀ヲ擅ニシテ居タ所京津國道改修擴張ノ衝ニ當ッタ爲ニ家モ藤モ立退ヲ命ゼラレ家ハ兎ニ角此藤ノ運命ハドウナルカ分ランコトニナッタノデ同君ハ去年ト今年ト連續シテ其滿開ノ花ヲ「レンズ」ニ收メラレタサウデアル、小生ハ島田君ノ植物愛護ノ眞情ニ大ニ共鳴ヲ感ズルト同時ニ吾國各地ニ於テ同樣ノ魔ノ手ガアタラ幾多ノ名木珍樹ヲ消滅セシメツヽアルコトヲ浩歎シテ止マナイノデアル、此寫眞ヲ打返シ眺メツヽアル間ニフト自分モ毎日偉大ナル藤ノ街路樹ノ傍ラヲ通行シツヽアルノニ氣ガツキ花ノ盛リヲ逸シテハナラズト甲速「カメラ」ヲ擔デ出掛タ其結果ガ次ノ如キ繪トナッタ、場所ハ東京市本鄕區富士前町十三番地駒込驛ヨリ本鄕三丁目ニ向フ電車道ノ東側デアル所有者ハ米穀商鷲田富士之助氏デ其何代カ前ノ人ガ前田家ヨリ拜領シタ名木デ同家デハ香ガ高イノデ之ヲ麝香藤ト呼